

平成25年度
第2回長岡市図書館協議会

日 時：平成 26 年 2 月 14 日（金曜日）午前 10 時 30 分から 12 時 05 分まで
会 場：中央図書館 2 階 講座室 1

会議出席者 委 員： 渡邊委員長 淵本副委員長 稲田委員 恩田委員 小林委員
佐藤（明）委員 佐藤（銀子）委員 藤澤委員 松本委員
※欠席：湯本委員
事務局： 金垣館長 島田館長補佐 岩渕庶務係長 松矢奉仕係長
石井文書資料室長 諏佐主査 長瀬主査 指定管理者田原統
括責任者 同高橋業務統括チーフ 同渡辺業務統括チーフ

1 開会

2 議事（議長 渡邊委員長）

（1）報告事項

- ① 平成 25 年度の主な事業の取組状況について
- ② 「子ども読書ボランティア読書イベントパッケージ化事業」及び「図書館による起業・キャリア形成支援プログラム」について

（2）協議事項

- ① 平成 26 年度の運営方針について
- ② 平成 26 年度の主な事業計画について
- ③ 平成 25 年度長岡市立図書館の活動評価について

（3）その他

3 閉会

4 会議録要旨

- 6月のブックランドサポーター研修は、学校図書館と図書館の連携の1つかと思うが、具体的な状況を伺いたい。
⇒ブックランドサポーターは、学校教育課所管の事業で、司書の資格のある9人が、35校の図書室をそれぞれ分担して、週1回程度巡って本の整理やコーナーづくりなどの環境整備するものである。サポーターに相談相手のいない状況があり、相談対応を行った。ブックランドサポーター研修はサポーターからの要望で実施したもので、1部は学校教育課職員との意見交換、2部は中央図書館職員が質問を受けて、本の整理の仕方などを答えた。
- 図書館システムの更新に係る上越市視察の狙いは何か。また、システムの決め方について伺いたい。
⇒現在は富士通のシステムを使っているが、次回のシステム選定では、複数の業者のシステムを実際に見ながら検討している。その検討の中で、現在運用されている上越市の富士通の図書館システムを視察した。決め方はプロポーザル方式で行う。
- キャリア形成支援プログラムはいい試みであるが、補助金の有無で事業の継続、廃

止というのはいかがなものか。何らかの形で新年度以降もやるのであれば、大学、高専と連携する必要がある。

⇒今年度は、県立図書館が受託した事業のモデル館指定を受け実施した。ビジネス支援については、今年度の成果を踏まえ、来年度も継続して実施したい。また、成果を検証し、必要があれば予算要求し、中央図書館の事業として実施したいと考えている。来年度以降も関係機関との連携は継続していきたい。

○子ども読書ボランティアのパッケージ化事業は、今までもやってきたことであり、改めて言われていることではない。今までの活動が文部科学省等から評価され、今補助メニューとされたものである。目新しい事業とは思っていない。読み聞かせの本来の目的である、親が子に愛情を注ぐ機会となることが大事である。補助金は、読み聞かせができる親の時間的余裕を作ってあげるなどの環境整備に使えたらよい。小さいときから本に触れていれば、図書館の利用にも繋がっていく。

○自分が子どもへの読み聞かせをやっていたころ、感情が入りすぎて苦言を呈された。読み聞かせには、基本的なことがあるのか。

⇒大きな場所でやる場合は、それなりの約束事があるが、自分の子どもに対しては、その子どもにとってよければどんなやり方でも良い。

○文言について伺いたい。重点事項1番目の「課題解決に向けた資料の充実と、利便性の向上を図る」の「課題解決に向けた」は、どの部分にかかって、どういう意味なのか伺いたい。

⇒図書館は、単に楽しみのために本を借りるだけではなく、ちょっとした市民の方の疑問に対して、例えば何かを修理するときには、どうしたらよいかとか、絵を描くにあたり、絵の題材となる写真があるとか、そういった疑問に対して図書館自体が役に立つといった意味合いがある。課題解決とはそういう意味であり、資料の充実と利便性の向上を図るにかかるとは。なお、課題解決という言葉は、文部科学省が示した、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の中で示されている。

○同じであることの持つ意味はあるので、方針や重点事項以下を見ていくと一通り盛り込まれており、いいと思う。ただ、時代が変化していく中で、何か付け加えていくものがあれば、プラスアルファするものを方針に盛らないまでも、実際の事業の中に新規として入れ込んで行くべきである。

○図書館のない地域の住民であるが、米百俵号のルートを昨年変えていただくなど工夫をしていただきありがたい。支所との連携をもう少し充実して行った方が良いのではと感じる。細かいところまで、配慮いただけたらありがたい。

○市議会の一般質問（平成25年12月市議会「図書館は、情報の拠点としての機能を強化すべき」というのは、項目の3番目（市民の意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。）にかかわるのか。

⇒項目の1番の「課題解決に向けた資料の充実と、利便性の向上を図る」にかかわるものと考えている。来年度も、個別の事業を評価の項目として決めることになるが、その際に検討する必要があると思っている。

○中越大震災10周年の事業は、年度内の予定であるが、概略というか固まっているものがあるれば、その内容について伺いたい。

⇒10月に中央図書館美術センターで、文書資料室が所蔵している避難所資料などを

活用した展示会を行う。さらに、長岡地域も含め、各地域を会場としたリレー講演会を開催するとともに、リレー講演会の記録集と震災関連の取り組みを紹介した本の増刷を行う。

○長岡開府 400 年という事業があるが、これについてのかかわりはどうか。

⇒長岡開府 400 年の記念事業は、現在、市の政策企画課が担当しており、構想などを検討する会が立ちあがっている。構想を検討している段階であり、具体的な話は聞いていない。

○上越市が今年開府 400 年ということだが、新幹線が来るということもあるのだろうが、準備がしっかりしている。とって付けたような形ではないなという感じがして、感心してきている。文書館の整備構想も長岡開府 400 年といった良いタイミングがあるので、そこに組み込めれば話が前に進む気がする。具体的な話は今後と思うが、検討してみてはどうか。また、中越大震災 10 周年事業は、地域館がデータベース化されているので、それと連携をとると、それぞれが生きてくることになるので、検討してみてはどうか。

○前回の長岡開府 300 年の際は、悠久山公園を令終会が造った。悠久山への道路もそれに合わせて造られるなど、大きな市民運動が生まれた。今回も、市がやるだけではなく、市民の声が上がっていかないといけない。文書館整備も含めて、災害関連事業についても、市民活動が大きな柱であっても良い気がする。

○子ども読書活動推進計画にあるワーキングは、良い試みである。このメンバーは図書館内部ではなく、教育委員会の関係部局であり、組織の活性化には、横の連携は大事なことである。そこで、構成課や具体的な内容について伺いたい。

⇒担当課は、保育課、学校教育課、教育総務課、教育施設課、子ども家庭課、中央図書館の 6 課である。ワーキングの報告の中で、びっくりしたのが、今の母親は、赤ちゃんが泣くとスマホの赤ちゃんが泣き止むアプリを出して、胸のところに置く人がいるという。手塩にかけて人が人を育てるといったことはどういうことか、ざっくばらんな話や色々な意見が出ている。このワーキングの目的は、今回の 1 次計画を実施していく中で、総括を行い、課題等を積み上げて行き、次回の 2 次計画策定時に活かすことである。毎年内容を見直しするものではない。ただし、やり方などについてワーキングの検討の中で、見直しができるものについては、行っていきたいと考えている。なお、ワーキングには、ブックランドサポーターの担当課職員も参加しており、そこで状況を聞きながら、図書館として何かできることがあるかどうか、例えば研修会をやるとかどんな支援ができるかを考えて行きたい。

○いわゆる PDCA で言うと、P (プラン) D (ドゥー) までうまくいくが、その後の C (チェック) と A (アクション) はなかなか上手くいかない。5 年計画は少し長いなと言う気もする。例えば、3 年計画で毎年見直しをやって行くくらいが良いのではないか。次に向けて、チェック & アクションをやっておかないと次の計画が上手く立てられない。横の連携を図り、ざっくばらんにチェック & アクションをやって、それを蓄積することが重要である。

○中央館の月末開館試行についてであるが、中之島地域図書館に行った時、月末の日で、何で日曜なのに休館なのかと思った。地域館にも土日の月末開館を拡大していただくとありがたい。

- 資料の保存場所であるが、山古志地域の旧種芋原小学校は、スペース的に大丈夫か。
⇒教室の半分ともう1教室を確保できたので、あと5年は大丈夫という見込である。
- 書庫のスペースが、限られており、確保するにもなかなか見つからないという話も聞くが、支所や学校等の空施設を利用することは重要である。効率的な観点も考慮し、保存場所の確保は、十分留意していただきたい。
- 友の会の会長をしているが、総会や会議でも中々意見が出ないし、出席する人も少ない。設立して10年たつが、会の運営については、苦慮している。
- 山下清展には、有料でも大勢の人たちが集まった。企画の内容や、市民の関心度とかからみて、大変よい企画であった。
- 地域図書館は、様々な場面で様々な事業を行うべきである。ポイントは、旧市域と新市域の連携である。地域館同士の交換展示など、よく連携されていると思うが、図書館以外の地域の関係機関との連携も含めて更に強化していくことを要望したい。
- 川口地域は、小千谷市をはさんでいるため、旧市内の人には、身近に感じてもらえないと感じている。川口地域にも特色のある資料がある。
- 要望であるが、どの企業でも人材育成は大事である。研修など頑張っていたきたい。